



平成 19 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 19 年 2 月 6 日

上場会社名 フジッコ株式会社

（コード番号：2908 東証・大証第一部）

（URL <http://www.fujicco.co.jp/>）

代 表 者 代表取締役社長 福井 正一

問合せ先責任者 取締役副社長企画本部長 渡辺 晃

（TEL：078-303-5921）

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無：有

（内容）

・引当金の計上基準等に一部簡便な方法を採用しております。

・法人税等の計上基準は、法定実効税率をベースとした計算を行っております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無：無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無：無

2. 平成 19 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

（単位：百万円未満切捨て）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第3四半期	37,584	0.1	2,686	19.0	2,871	17.6	1,893	16.7
18年3月期第3四半期	37,545	2.4	3,315	12.2	3,484	10.6	2,272	4.0
(参考)18年3月期	48,225		3,418		3,624		2,238	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第3四半期	56.02	-
18年3月期第3四半期	80.60	-
(参考)18年3月期	78.21	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を表示しております。

平成 18 年 4 月 1 日付をもって普通株式を 1 株につき 1.2 株に分割しており、平成 19 年 3 月期第 3 四半期の 1 株当たり四半期純利益は、当該分割後の株式数を用いて算出しております。

当第 3 四半期におけるわが国経済は、輸出が増加を続け、企業収益が高水準で推移し、雇用者所得も穏やかな増加を続け、個人消費は伸び悩みつつも増加基調にあります。スーパーマーケットの売上高は連続して前年実績を下回り、当社グループにおきましては依然として厳しい事業環境となりました。

このような状況下、当社グループにおきましては、豆と昆布のコア事業の基盤強化、ならびにカスピ海ヨーグルト事業、首都圏の日配惣菜事業など新規事業の拡大に注力するとともに、全社的な利益回復努力目標を掲げ、取り組んでまいりました。

主な製品分類別の販売状況は、豆製品では主力の煮豆は好調に推移いたしましたが、水煮、納豆は厳しい結果となりました。また、その他製品では、機能性素材「フジフラボン」、豆乳飲料の売上高が減少いたしましたが、昆布製品では、新しい食べ方提案による塩吹昆布、とろろ昆布の伸長、そう菜製品では首都圏の日配惣菜事業の売上高を順調に伸ばすことができました。

その結果、当第 3 四半期の連結売上高は 375 億 84 百万円（前年同四半期比 0.1% 増）、売上原価率の低減により、利益の改善に努めましたが、連結経常利益は 28 億 71 百万円（前年同四半期比 17.6% 減）、連結当第 3 四半期純利益は 18 億 93 百万円（前年同四半期比 16.7% 減）となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	64,787	50,979	78.7	1,509.40
18年3月期第3四半期	64,758	50,538	78.0	1,793.02
(参考)18年3月期	64,307	50,577	78.6	1,793.30

(注) 平成18年4月1日付をもって普通株式を1株につき1.2株に分割しており、平成19年3月期第3四半期の1株当たり純資産は、当該分割後の株式数を用いて算出しております。

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	120	3,503	1,057	13,341
18年3月期第3四半期	541	1,876	927	14,884
(参考)18年3月期	4,042	2,170	996	18,023

当第3四半期末の総資産は、自己資金で新物流センターを建設したこと等により、前連結会計年度末に比べ4億80百万円増加し、647億87百万円となりました。

純資産は、当第3四半期純利益が18億93百万円であったこと等により、前連結会計年度末に比べ4億2百万円増加し、509億79百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末の78.6%から78.7%となりました。

当第3四半期のキャッシュ・フローの状況については、税金等調整前の当第3四半期純利益が32億10百万円、減価償却費が14億15百万円に加え、未払金の増加が9億83百万円、仕入債務の増加が7億94百万円、投資有価証券の売却等による収入が7億67百万円であったものの、営業活動において売上債権の増加が34億85百万円であったこと、法人税等の支払いが16億15百万円であったこと、投資活動において有形固定資産の取得による支出が32億円であったこと、無形固定資産の取得による支出が6億48百万円であったこと、さらに財務活動において配当金の支払いが7億70百万円であったこと等により、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は、前連結会計年度末に比べ46億82百万円減少し、133億41百万円となりました。

(参考1) 四半期個別経営成績等の概況(平成18年4月1日～平成18年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期) 純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
19年3月期第3四半期	37,054 0.2	2,160 24.8	2,414 22.2	1,635 19.7
18年3月期第3四半期	36,979 2.3	2,874 13.2	3,101 12.0	2,035 2.7
(参考)18年3月期	47,547	2,920	3,195	2,032

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	60,050	48,498	80.8	1,435.95
18年3月期第3四半期	60,238	48,280	80.1	1,712.89
(参考)18年3月期	59,638	48,350	81.1	1,714.39

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を表示しております。平成18年4月1日付をもって普通株式を1株につき1.2株に分割しており、平成19年3月期第3四半期の1株当たり純資産は、当該分割後の株式数を用いて算出しております。

3.平成19年3月期の連結業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
通 期	49,250 ^{百万円}	3,250 ^{百万円}	2,100 ^{百万円}	61.10 ^{円 銭}

(参考2)平成19年3月期の個別業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
通 期	48,500 ^{百万円}	3,050 ^{百万円}	2,000 ^{百万円}	58.24 ^{円 銭}

1株当たり予想当期純利益の計算は、第3四半期末発行済株式数によっております。

上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想につきましては、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

当社グループを取り巻く事業環境は、依然として厳しい状況が続いておりますが、当期の連結業績は概ね当初(平成18年9月中間期決算発表時)の予想どおり推移すると見込んでおります。

なお、個別業績予想についても同様であります。